

IBC Press Release

平成26年3月17日



IBCつながるアプリ公開について

IBC岩手放送と岩手県立大学が連携して開発 ～ニュース&コミュニケーションで放送をより身近に！～

本格的なスマートフォン時代を迎え、IBC岩手放送(鎌田英樹代表取締役社長)は、岩手県立大学(中村慶久学長)と連携し、スマートフォン向けの「ニュース&コミュニケーション」アプリを開発しました。開発にあたっては、岩手県立大学ソフトウェア情報学部と協力し、アプリのUI(ユーザインタフェース)を中心に学生たちの意見を採用、使い勝手のよいアプリを目指しました。

また今後の開発や運用についても岩手県立大学と連携しながら、地域の新しい情報コミュニティの基盤づくりを目指します。さらに地域の情報発信ツールとして、岩手発の情報も積極的に発信していきます。アプリのリリースは3月17日。iOS、Android対応で、ダウンロードは無料です。

【アプリ概要】

「IBCつながるアプリ」は、IBC岩手放送が東日本大震災の経験を踏まえ、新たな情報ツールとして開発した「ニュース&コミュニケーション」アプリです。

「ニュースアプリ」としては、岩手県内はもちろん日本・世界のホットなニュースを配信します。また全国の震度3以上の地震など災害に関わるニュースは自動でプッシュ配信。またその他の重要ニュースについてもプッシュ配信が可能となっています。全国ニュースは共同通信のニュースを配信します。

一方、「コミュニケーションアプリ」としては、放送と連動するアンケート機能「4択調査隊」や、動画・写真の投稿機能「つながる特派員」を搭載しました。視聴者・リスナー・ユーザーと放送局との新しいコミュニケーションツールとして、アプリとラジオ・テレビ放送とを絡めた展開を行っていきます。



※各製品名は各社の商標または登録商標です
※画面は、製作中のものであり、
公開時と多少異なる場合があります

【本件に関する問い合わせ先】



〒020-8566 岩手県盛岡市志家町6-1
www.ibc.co.jp/
編成局クロスメディア部 部長 相原優一
TEL 019-623-3146



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52
www.iwate-pu.ac.jp/
ソフトウェア情報学部 教授 村山優子
TEL 019-694-2548

IBCつながるアプリの4機能 + α

NEWS

COMMUNICATION

岩手/全国ニュース



調整前と変わらず1.00倍

2014年2月24日 16:21 更新

来月7日に行なわれる公立高校一般入試の、最終的な志願倍率がまとまりました。県立高校全日制の志願倍率は、調整前と変わらず1.00倍です。県内の公立高校では、一度だけ志望校を変更できる調整期間を設けており、きょうは調整後の志願倍率が発表されました。県立高校全日制は推薦合格者などを除いた実質定員が9232人に対し、志願者は9187人と調整前より28人減りました。実質3年連続の定員割れですが、平均志願倍率は調整前と変わらず1.00倍となりました。一般入試は来月7日に実施され、合格発表は来月13日の午後3時から各学校で行われます。各校の志願倍率はIBCのホームページに掲載されています。



岩手のニュースは動画も配信
全国ニュースは共同通信から

トレンド



築100年の蔵を改装した店内で 自家焙煎のコーヒーとチーズケ...



岩手を中心としたトレンド情報
美味しいもの・イベント・街や人など
一押し情報をコンパクトにお届け

つながる特派員



「つながる特派員 投稿ギャラリー」とはIBCつながるアプリで募集したテーマに対して皆さんから送っていただいた写真や動画を共有するサイトです。



投稿する

投稿ギャラリーの写真・動画に関して
このWebサイト上の複製、転載、写真などの著作権は、株式会社IBC電子放送（以下、
IBCE）が保有しています。これらの著作権が保護されたままに一部を複製や改変の
目的で転載、複製、転載等を行うことは著作権法で禁止されています。

身近な話題を手軽に投稿
番組からテーマも呼びかけ
緊急情報は24時間受付

4択調査隊



アンケート
風邪予防としてよくしている
ことは？



じゃじゃじゃTV
2014年4月7日 10:00 放送予定



番組連動4択アンケート
結果は番組内でお知らせ
過去の結果はアプリ内でも

+ α 便利機能

岩手県立大学と連携

PUSH配信



全国の震度3以上の地震や
津波・気象情報(*)などは
自動でプッシュ配信

(*)

- ①地震情報 ②津波情報
- ③緊急火山情報 ④短時間大雨観測情報
- ⑤洪水予報



岩手県立大学ソフトウェア情報学部と連携。アプリ開発段階からUI(ユーザインタフェース)等を中心に学生と意見交換し、アプリに採用。またアプリ公開後も地域の新しい情報コミュニティの基盤づくりに向け、テーマを設定しながら共同での研究・開発を進めていく。